



いよいよ本格的な夏がやってきました。お互い、暑さに負けないように、体調には十分に気をつけたいですね。さて、今年度は山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館にとって節目の年にあたります。今回は、これまでの山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の歴史などを振り返ってみたいと思います。

山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の沿革

山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館は、昭和 56 年 6 月 3 0 日に鳥取県生活環境部自然保護課が山陰海岸国立公園を紹介する目的で、「山陰海岸自然科学館」を設置したことに始まり、今年の 6 月 3 0 日で設置されてから 4 5 年が経ちました。設置当時は、16mm 映画で日本海の生き立ちが紹介され、9 台のスライド映写機で山陰海岸の自然や厳しさがマルチスクリーンに映し出されていたそうです。その後、平成 1 8 年 4 月 1 日に鳥取県立博物館へ所管が移され、「山陰海岸学習館」に改称されました。平成 1 9 年度には海洋生物の学芸員、平成 2 2 年度には地学の学芸員を採用するとともに、非常勤専門員や事務職員も採用され、職員体制も拡充されました。



【写真 1 リニューアル当時の山陰海岸学習館】

平成 1 9 年 7 月 1 6 日に山陰海岸ジオパーク推進協議会が設立され、本格的に世界ジオパークを目指した推進活動が始まりました。山陰海岸学習館も、平成 2 2 年 4 月 2 4 日には山陰海岸ジオパークの拠点施設としてリニューアルオープンしました。リニューアルオープン時には、鳥取県立博物館の海の分館として、また、山陰海岸ジオパーク全体を紹介する博物館として整備されました（写真 1）。その後、ジオパークの再認定審査に向けて、新温泉町山陰海岸ジオパーク館とともに中核拠点施設の 1 つとして位置づけられました。

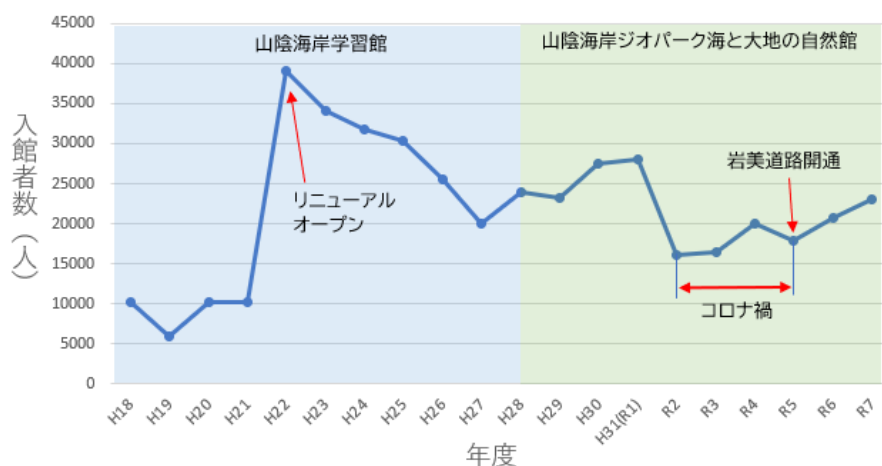
平成 2 8 年度には、鳥取県立博物館の附属施設（教育委員会）から知事部局のジオパーク担当課へ移管され、名称も「山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館」となり、今年で 1 0 年が経ちます。表 1 に沿革をまとめました。

所 管	日 付	沿 革
知事部局	昭和 56 年 6 月 30 日	「山陰海岸自然科学館」として竣工
	昭和 63 年 3 月 31 日	体験学習室と電気室を新築
教育委員会	平成 18 年 4 月 1 日	「山陰海岸学習館」として鳥取県立博物館に附置（所管換え）
	平成 19 年 3 月 14 日	ペレットボイラー機械室を増築（現在はペレットボイラーは撤去済）
	平成 22 年 4 月 24 日	山陰海岸ジオパークの拠点施設としてリニューアルオープン
	平成 23 年 4 月 20 日	休憩コーナー増築
	平成 24 年 3 月 30 日	屋外トイレ棟増築
知事部局	平成 24 年 9 月 1 日	「さかなクン」を「山陰海岸学習館ギョギョバイザー」に任命
	平成 28 年 4 月 1 日	「山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館」として知事部局に移管（所管換え）

【表 1 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の沿革】

入館者数の推移

山陰海岸国立公園の自然等を紹介する施設から、山陰海岸ジオパークの拠点施設となり、入館者数も変化してきました（図1）。ジオパークに認定される前は、およそ1万人程度だった入館者数が、ジオパークの拠点施設として平成22年にリニューアルし、山陰海岸ジオパークも世界ジオパークネットワークに加盟認定されたこともあり、約4倍となりました。その後、入館者数は減少傾向となりますが、知事部局に移管し、山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館となってスタッフも増え環境も充実したことで、徐々に入館者数も増えていきました。令和2年から令和5年の春頃まではコロナ禍で入館者が減少し、加えて令和5年3月の岩美道路（浦富IC～東浜IC間）の開通によって、回復傾向だった入館者数も一時減少しましたが、令和6年度以降順調に増加しています。



【図1 入館者数の推移】

充実する展示物

展示物も年々充実させてきました。平成25年には、3D映像の上映が始まり、現在まで3作品の映像を作製し上映しています。平成27年にはダイオウイカの標本を展示しました（写真2）。迫力ある展示は大変人気があります。平成28年にはデジタル地球儀を設置しました。地球の雲の様子や地震活動、CO₂の濃度変化、生物の移動など、さまざまなデータを表示することができ、実際に手で触って地球を回転させることもできます（写真3）。令和7年にはバーチャル映像による展示解説と鳥取砂丘沖の水中映像の上映を開始しました（写真4、写真5）。



【写真2 ダイオウイカの標本】



【写真3 デジタル地球儀】



【写真4 バーチャル映像用ゴーグル】



【写真5 鳥取砂丘沖の海中映像上映】

このほかにも、デジタルサイネージの設置や日本海形成に伴う多様な地形・地質を紹介した映像の上映など、紹介できていない展示もあります。ぜひ、実際に訪れて体感してみてください。（安藤）

【職員紹介】

7月1日より、2名の職員が新たに加わりました。山崎 尚さん（事務職員）と石上敏彦さん（3D 看視員）です。今後ともよろしくお願いします。

<<8月のイベント情報>>

※8月1日(土)に実施予定の「ジオパークヨット体験クルージング」の申込は締め切りました。

8月 2日(日) 9:00～12:00 「シュノーケルでウミウシ観察」 WEB 申込 先着順

8月 8日(土) 9:00～12:00 「ガイドと行くツアー 蒲生峠と荒金鉱山コース」 WEB 申込 先着順

8月22日(土) 10:00～12:00 「オリジナル和紙を作ろう」 WEB 申込 先着順

